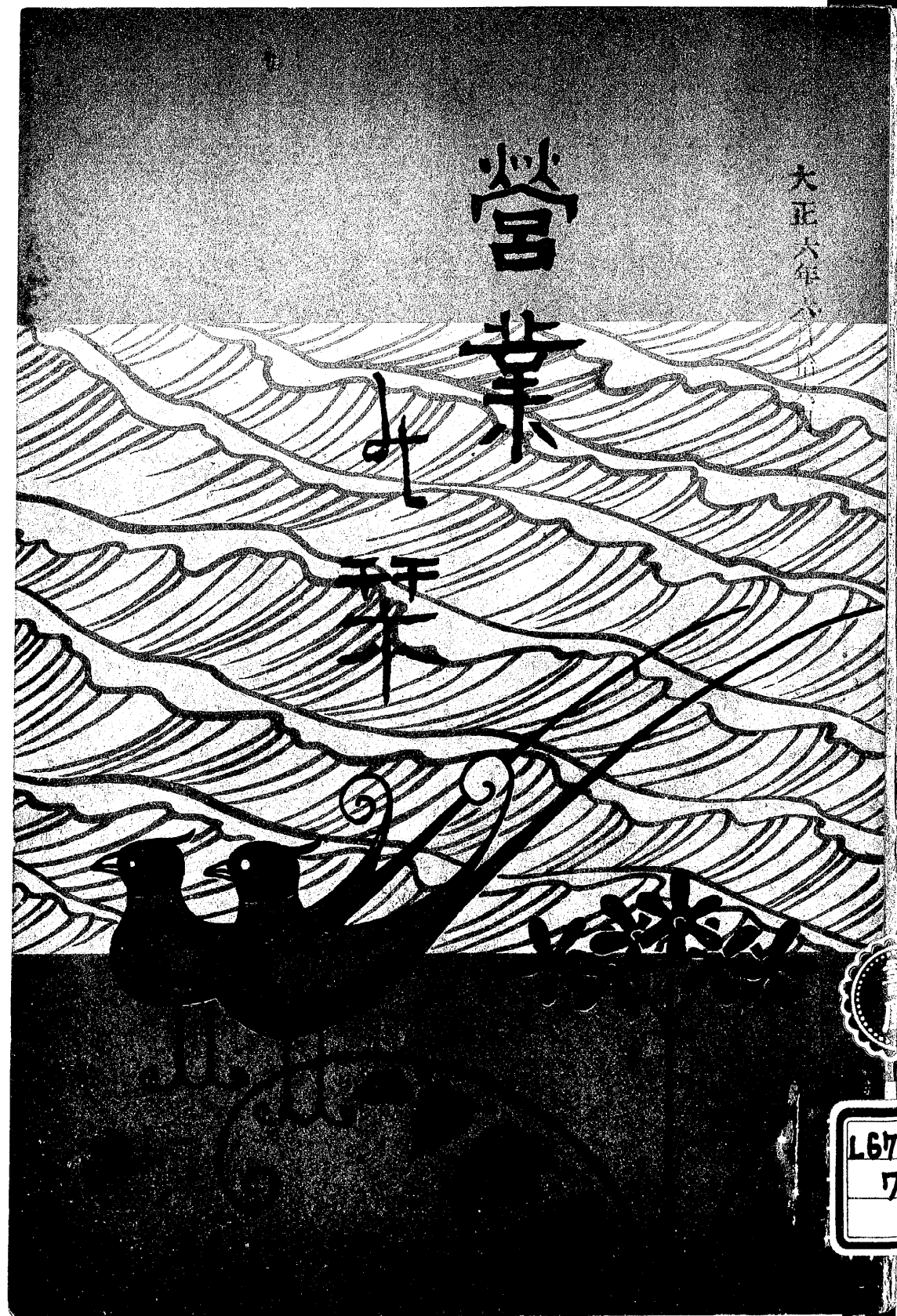


營業の棧

1917年6月



10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

L67
7

稟告

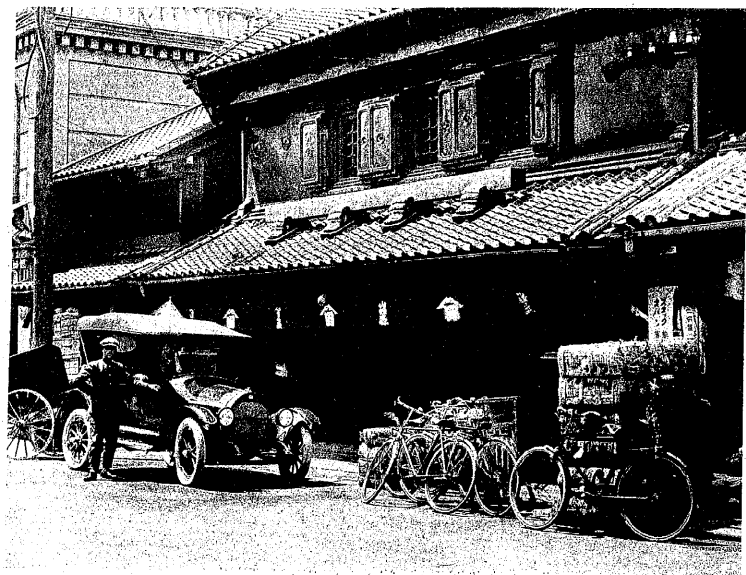
謹啓満都の人を酔はしめたる花も旬日の盛にて今や既に地に墜ち緑葉新に萌え出
て歸雁燕來人も皆な衣を更へて舞臺一轉初夏の心地好き候と相成り候處各位愈々
御清勝奉慶賀候御蔭を以て弊店各部共日増に隆盛に趣き候段感銘仕り候就ては今
春よりは一層發奮努力主義を實行仕る決心を以て商業界に於ける最新の武器たる
自動車^{自働車}を以て各地に活動を開始致し勤めて御得意各位の御便宜を相計り以て御高
志の萬分の一に酬ひ度くと愚考仕り候
例に由り茲に營業の葉夏物號を呈上仕り候元より狹量なる紙面にて營業品目の標
準を掲載致したるに過ぎず候へば唯だ御勘考の御相談相手ともならば幸甚至極に
御座候先づは大正六年夏物號を發行に付き聊か御挨拶申述度如此御座候 敬白
大正六年五月

川越町鍛冶町

山田屋號

畠渡邊 吳服店

電話(二十六番)
電話(略ヤマタ)
振替口座(二八七七番)



部 服 吳 店 永 邊 渡



部 服 洋 邊 渡

拜啓當銀行も御蔭を以て逐日發展を告げ候は偏に各位御同情の賜に依る事と奉感
謝候尙ほ將來共吳服店各部と御同様御引立に預り度く奉願上候就ては御參考迄に
末尾に當行營業種目及び各地爲替取引先を掲載致し置き候間何卒御用向被仰付度
く奉懇願候 敬白
大正六年五月

畠 越 邊 銀行

川 越 町

電 話 (二四一) 番
電 略 (九) 番
振替口座 (二九〇四六番)

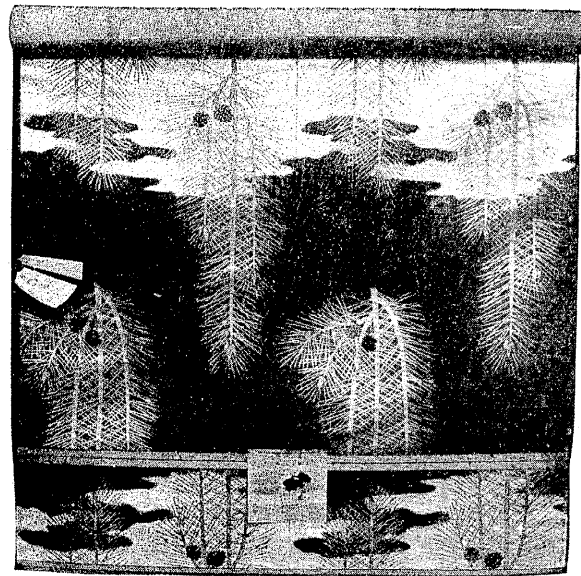
山 田 屋 號
卸 部

電 話 (二六二) 番
電 略 (ヤ) 番
振替口座 (二八七七番)

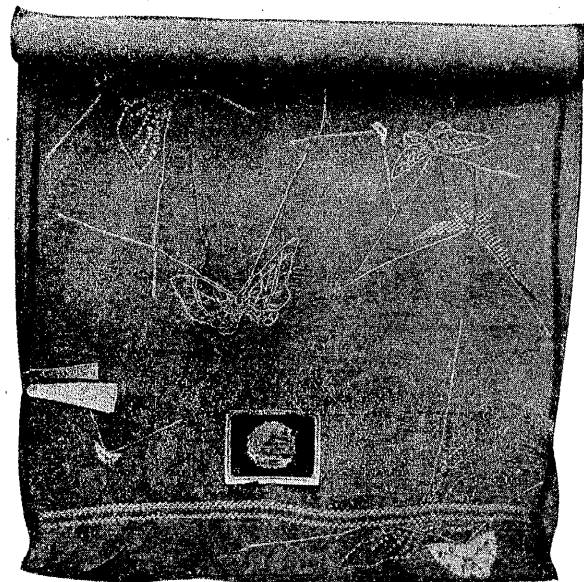
山 田 屋 號
洋 服 部

電 話 (二六二) 番
電 略 (ヤ) 番
振替口座 (二七八八番)

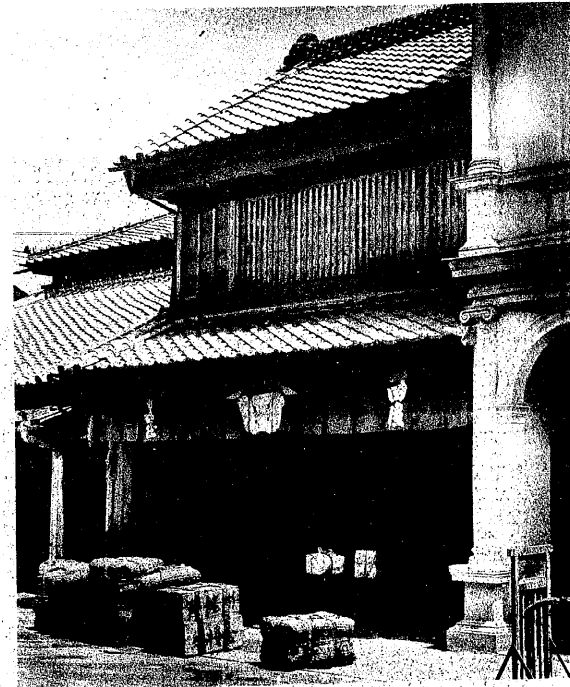
(1)



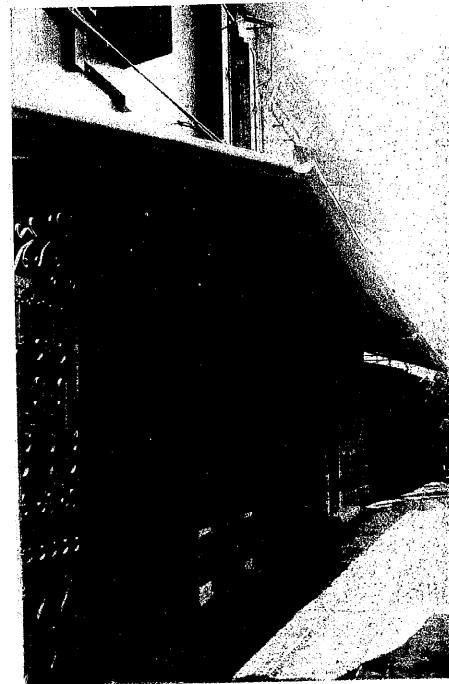
鐵地ニ市松ノ霞ニ若松ノ御殿模様
(1) 厚板織丸帶
金參拾八圓五拾錢



鼠地紋リ蝶模樣
(2) 横紹丸帶
金拾貳圓八拾錢



部卸邊渡



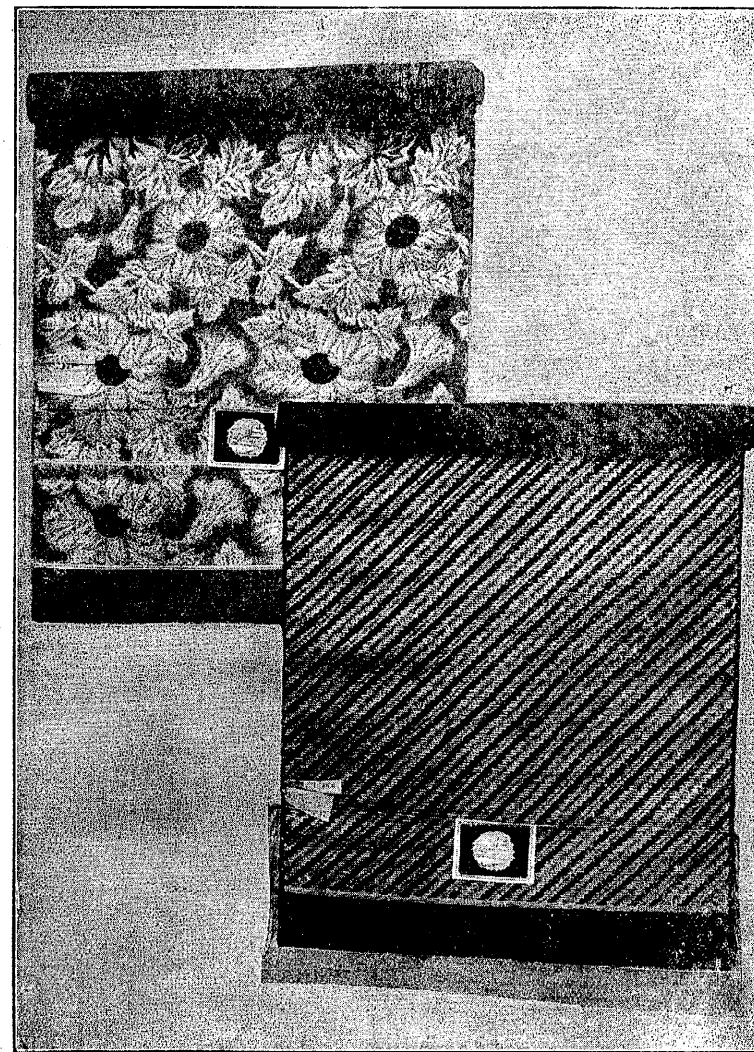
部一ノ庫倉行全



行銀邊渡越川

(2)

薄鼠地唐花ノ紋様
美佐保唐織丸帶 (1)
金貳拾四圓五錢

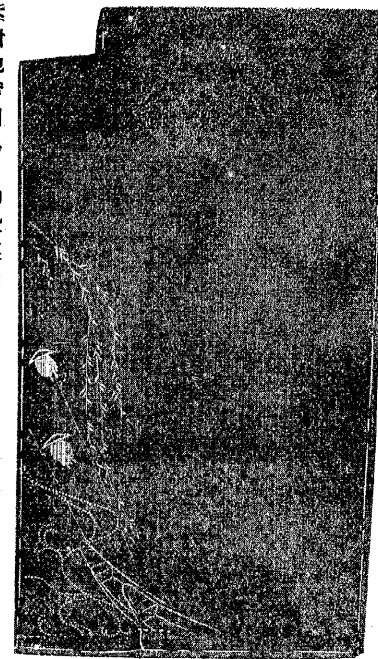


黒地銀ノ斜ニ段藤ノ花ノ様
(2) 紹朱珍丸帶
金拾八圓五錢

(3)

紺地ニ柳ニ曳舟様

(1) 立紹御召江戸襦 金貳拾五圓



紫紺地ニ芦川鳥ニ御殿様

(2) 立紹江戸襦 金貳拾六圓



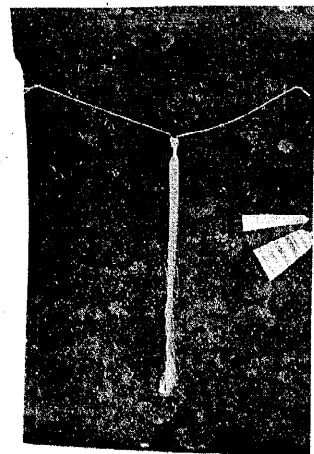
薄茶地ニ紺ノ立縞ニ芙蓉様

(3) 金紗御召單着天地江戸襦 金貳拾六圓八拾錢



紺地ニ霞ニ松竹梅紋

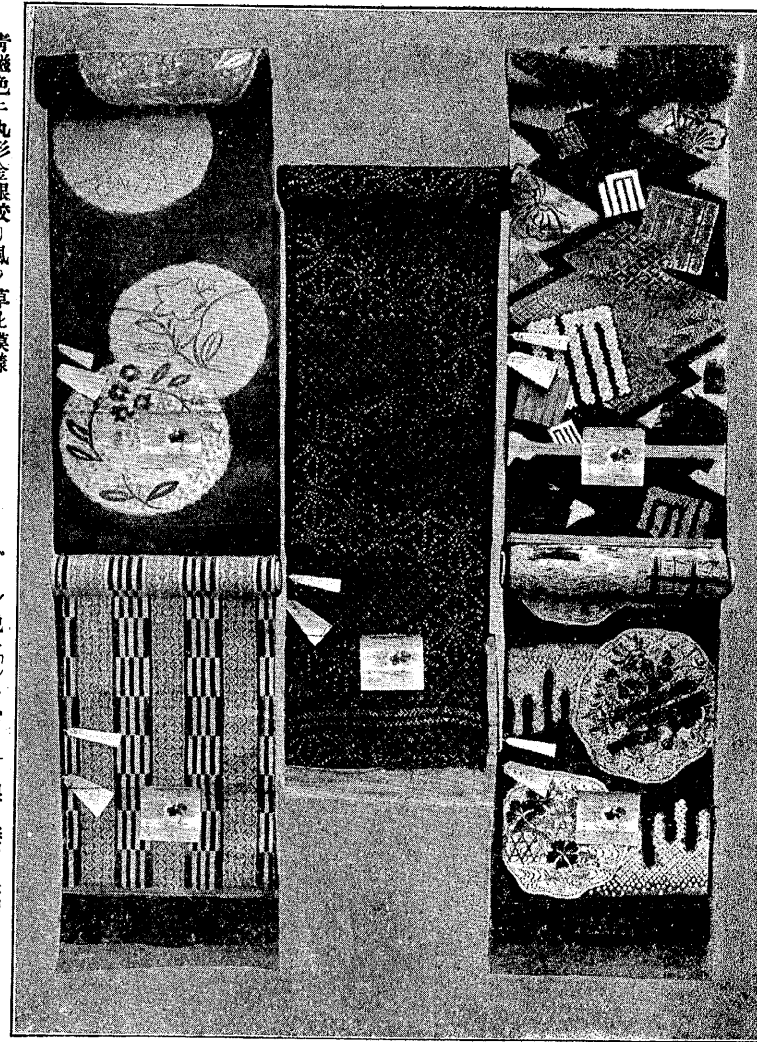
(4) 萃紋御召 金參拾圓六拾錢



(4)

金茶地ニ金銀松川菱ニ源氏模様
(1) 糸錦織別上九寸 金貳拾圓

紺地金銀紅入ノ地紋カ翁ナ格子ニ絞リ草花模様
(2) 唐織九寸 金拾九圓五拾錢



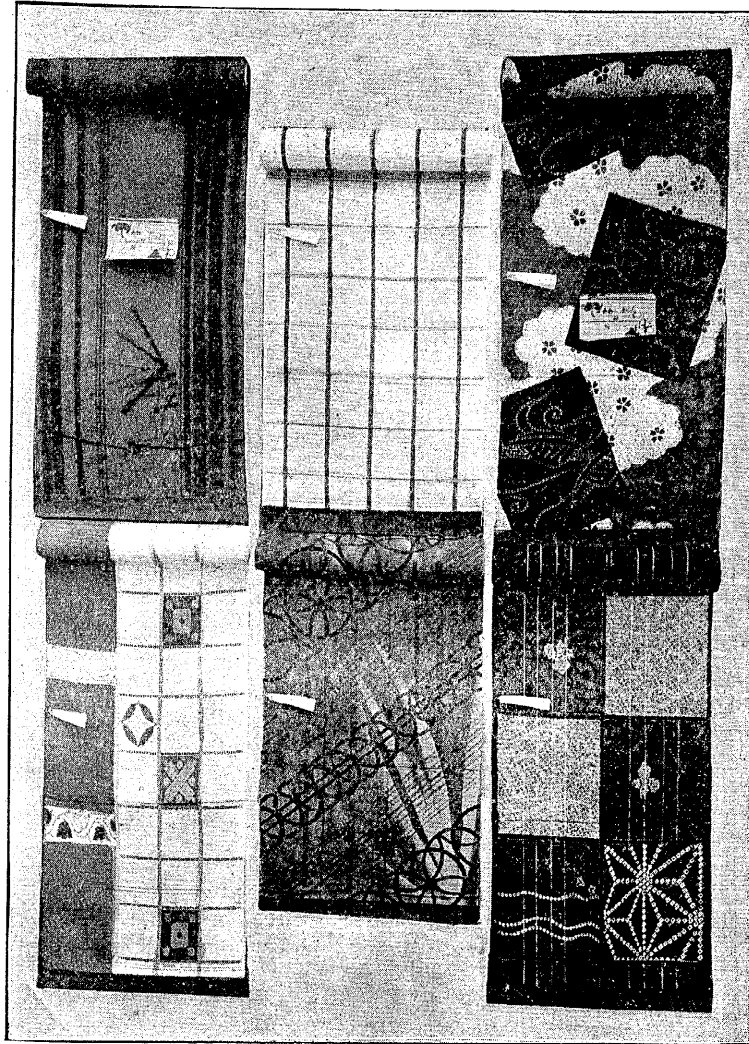
青磁色ニ丸形金銀絞リ風ノ草花模様
(4) 唐織九寸 金拾九圓五拾錢

グリーン色ニ「シツボウ」ノ銀ノ接ギ立縞
(5) 糸錦九寸 金拾壹圓

紺地ニ波葉麻田飛ニ地縞
(3) 金紗羽二重九寸 金九圓七拾錢

(5)

白地ニ地紋入格子
(2) 實用向キ八端織九寸 金貳拾圓六錢



グリーン色模花ニ絞リ應用ノ數紙模様
(1) 實用向キ金紗友仙九寸 金貳拾圓

白地ニグリーンノ染分ケノ猶太模様
(6) 錦唐織一名嵐山九寸 金拾四圓

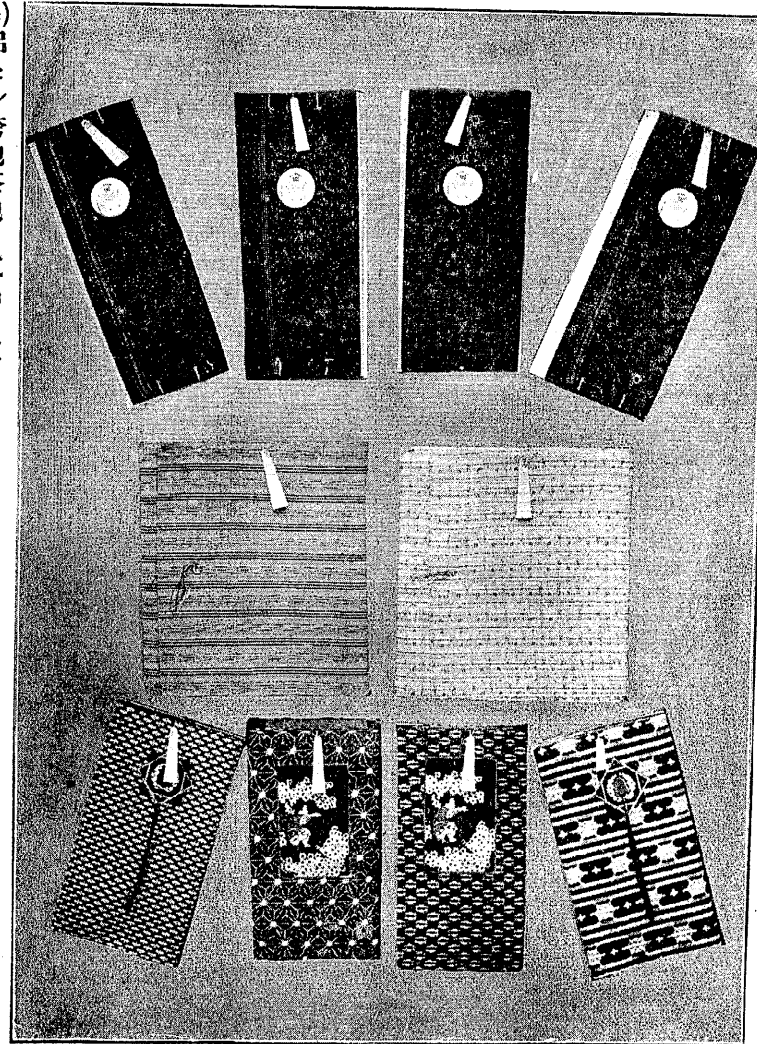
白茶地ニ燒茶ニグリーンノ絞リ應用
(3) 半絹立縮實用向キ九寸 金拾八圓五錢

茶地ニ白ノ立縞ニ絞リ市松形
(4) 錦唐織一名嵐山九寸 金拾四圓五錢

黒色布織ニ立縞ニ絞リ
(5) 縞御召九寸 金貳拾圓六錢

(6)

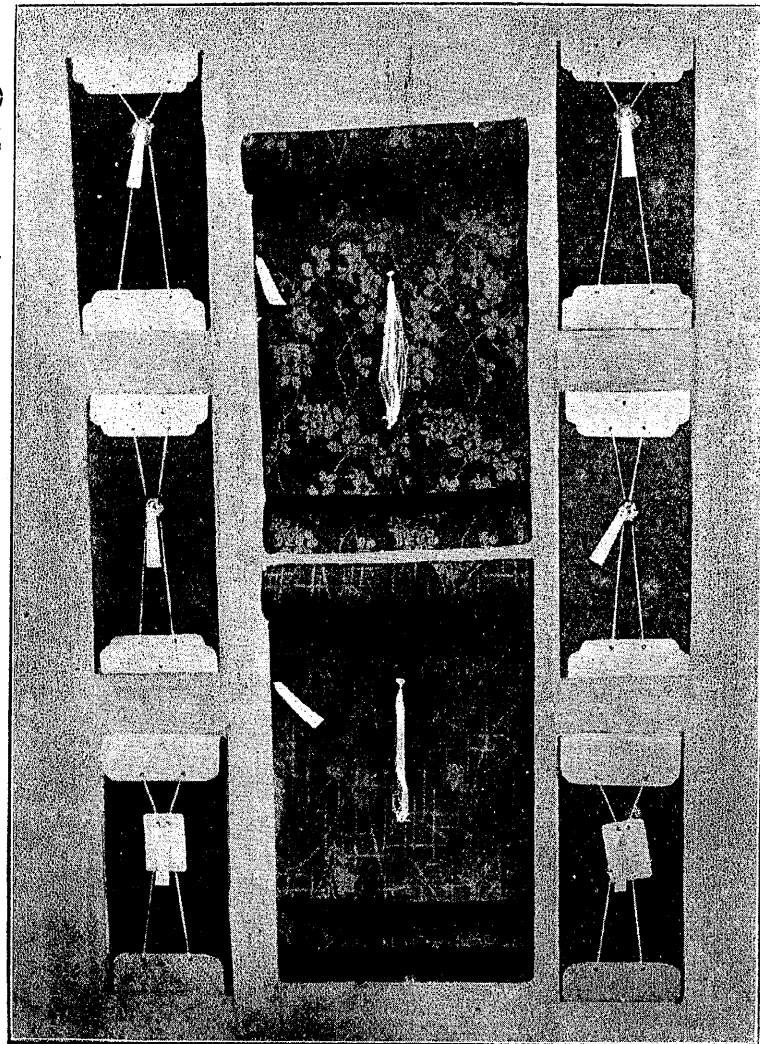
紹セル袴地(1) 鼠地横紹立縞
金八圓五拾錢
アラスカ織單地ノ縞珍緋(7) 紺地金將印染緋
金壹圓六拾五錢
紹セル袴地へ立紹ノ立縞
金八圓五拾錢
アラスカ織茶地立縞
金參圓五拾錢
紺地金將印染緋
金壹圓六拾五錢



緋染印將金地紺(9)(8)
錢拾參圓壹金

(7)

地單織仙友ミ縮紺ス瓦(7)
圓參金



地單織仙友ミ縮紺ス瓦(8)
圓參金

(2) 瓦スセル單地
金貳圓四拾錢

(4) 瓦スセル單地
金壹圓九拾錢

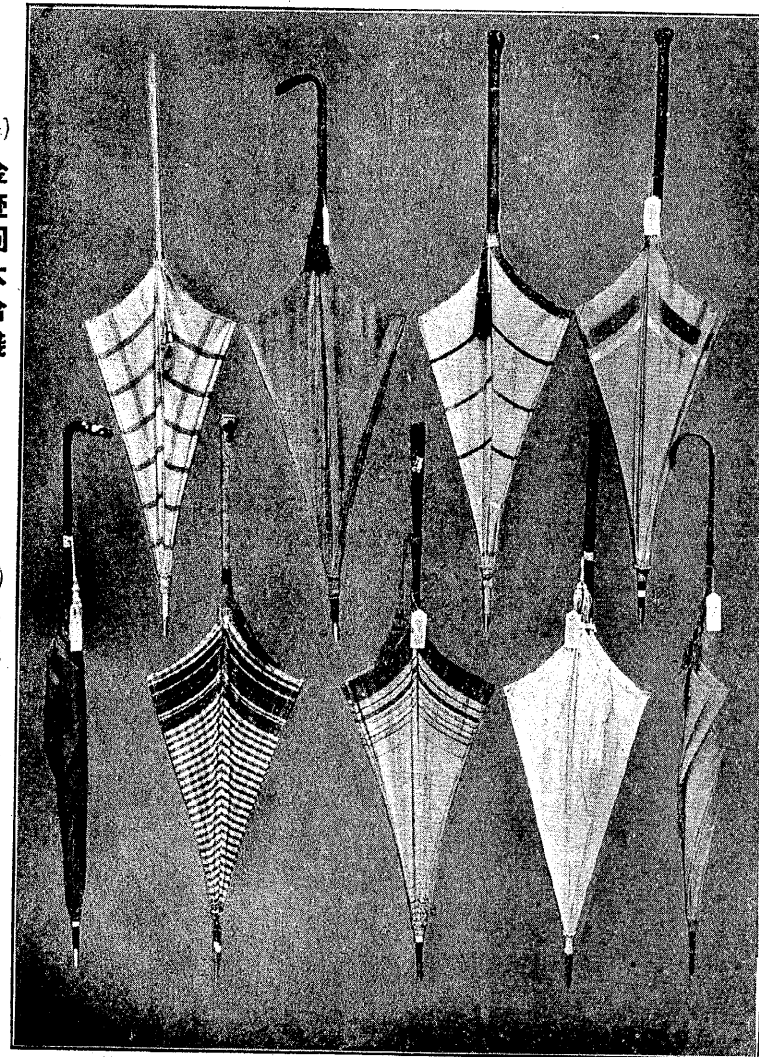
(6) 瓦スセル單地
金壹圓六十錢

(1) 瓦スセル單地
金貳圓四拾錢

(3) 瓦スセル單地
金壹圓九拾錢

(5) 瓦スセル單地
金壹圓六拾錢

錢拾貳圓金(3) 錢拾參圓金(2)



甲斐絹及絹中洋傘
(1) 金參圓貳拾錢

(5) 金壹圓四拾錢

(4) 金壹圓六拾錢

(9) 金參圓五拾錢

錢拾貳圓金(8) 錢拾八圓金(7) 錢拾五圓金(6)

自働車の出張販賣に就て

來る客人を待つとか網を置て魚を捕るとか云ふ行方方は數年前迄は盛に實行せられ又た宜敷主義なりと考へられて居つたが今日の商店經營法としては既に時勢遅れである苟も飛行機が實戰上欠く可らざる要機として用ひらるゝ今日では到底客待主義の經營法では自分共としても満足が出来ぬ況して御遠方の顧客には御出ましも自然度少し態々僅かの用事の爲めに遠路を往復なさるのも誠に御迷惑の次第である。

即ち是處に到つて經營者の一考を煩はす必

要がある斯る場合は通信販賣法が出張販賣法かに由らざる可らず通信法は云ふまでもなく書面にて御注文に接し見本切を差上げて御定めを願ふ方法なるも出來得可くんば何誰としても見本小布で品定めするよりも現反を御覽の上決定なさる方が心地好きものである。

又た販賣方の弊店としても是非澤山の現品を御覽に入れ已に御持合の品々と御比較の上遠慮なく御客様の御氣に召すものを提供すると云ふ生意氣かも知れぬが所謂積極主義で無くては駄目である。

弊店が今春より自働車を以て各地へ出張販賣を始めたのも畢竟之の主義から生れたる



一部の活動に過ぎぬ近くは尚ほ一層營業振を
考案擴張し何處までも努力主義を以て御客
様を本位とし痒い處に手の届く様致し度き考
へである

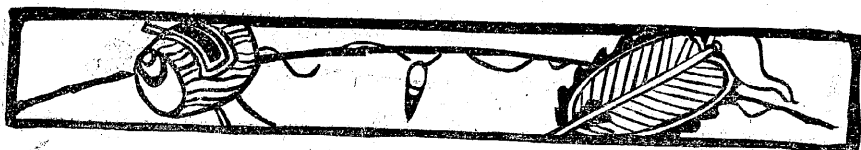
元より自動車出張は販賣を唯一の目的と
する譯ではない大體が弊店商品の一部宛を御
照會申上げ地方商店に無い斬新珍柄を御覽
に入れ御祝事のある時には成程彼の柄が宜敷
いと此の品で無くてはならぬとか御氣慮を
願つて置けばいざと云ふ場合には端書一枚に
澤山の品物が瞬時の中に御目に掛けらるゝ
第である、尚ほ又た大勢様にて御見立を御
希望ならば自動車にて御案内申上げゆるゝ
品物の御選定を願へば自然御氣に召したものが
御調度になると云ふ譯で誠に弊店としても
名譽であり且つ満足である。

商店に無い品を精々御願するので決して無暗
に競争する譯ではない併し熱心と誠實と勉強
とが弊店の經營方針である事は何處までも御
承知置きを願ひ度い。

忠 實

「さあ、皆んな前の方へズートおいでよ
何んだね遠慮なぞして。」
と今しも有福なそして慈愛深い顔を遺憾なく
發起した御隠居さんが、大勢の小僧さんを集
めてじゅん／＼と説き聞かせて御座る。

人間は第一一番に忠實と云ふ事が何より大切
ですよ、日々買物にお出下る大勢のお客さ
ん方に對しては決して虚言、偽りを言はず何
事も忠實に御用を勤める事が何より大切だし
又日々扱ふ品物に對しても充分注意して忠實
に働くこと云ふ事がやがて其身の出世する基に



なるのですから其邊の事を平素よく、考へて
居らねばなりません。忠實と云ふ事について
思ひ出しましたが、こう云ふ話を聞いた事が
あります、昔し京都の或る有名な御醫者の内
で——お名前は一寸忘れましたが——或る時家
の修繕をなさいました、毎日多くの大工さん
や何か入つて仕事をしておりました、處が
或日の事壁を壊しましたら壁と板の間の極く
狭い處に「家守」と云ふ虫が釘にさされた其
儘生存して居るのを發見しましたので不思議
に思つて主人に其お話をしましたら、先生も
驚きなすつて此の普請は三年前にしたのに
どうして今迄生きて居たのだらうと、皆々其
處へ集まつて見て居りますと、やがての事一
匹の小さな家守が口に餌の様なものをくわへ
て來りまして釘にさされて居る家守に與へて
居るのだ相です。是れを見ました一同の者は
實に驚きもし又感心も致しました、多分之れ

は釘にさされて居る家守のお神さんが三年一
日の如く良く夫に仕へ日々餌を運んで居たの
でありませう虫類でも人間も及ばん程此の忠
實な行いには實に感心なものです。一體家守
は毒を用ひて人には害あるものな相ですが此
の感心な行ひにめんど直ちに釘を抜いてやり
ましたら、如何にも嬉し相に二匹にて逃げて
行つたと云ふ話です。それから夜分の事です
一人の下女が御主人の居間へ來りまして申し
まするに

「旦那様永らく御世話様に成りましたがどう
ぞ今晚にもお暇を戴きたう御座います。」
と申し出ましたので御主人も不思議に思ひま
した。

「其れは暇を呉れと云ふなら何時でもやるけ
れども一體どうした譯かあまり突然の話では
ないか。」
と段々聞き純しましたら、下女もとう／＼包



みきれず
「實は私に國に連れ合ひが居りますけれど
もどうしても気が合ひませんので實は無斷で
家を出ましてこちら様に御世話に成つて居り
ましたが今日の家守を見ましてつく／＼我身
ながら我が身に愛想がつかしました、あの虫で
さへも夫に仕へ三年間一日の如く忠實に働い
てるに私はまあ何と云ふ事でしよう、夫
を嫌つて無斷で家出するとはあの虫にもと
ります、之れから早速國に歸りまして訖を致
したいと思ひます。」と始めて立ち歸る人たる
の道。

此の話を聞きまして主人も感心して嗚呼よ
く気が付いた、人の性元善なりお前も晩まき
ながら其善に戻つたのだ、過つて改むるに憚
る勿れと云ふ事がある、決してお前の恥ぢで
も何んでもない一日も早く國へ歸つて一家睦
まじく暮らせよと云ひ聞かせて國へ歸してや

りました。下女は其後國へ戻つて夫に詫び入
り能く忠實に盡し後世孝女の龜鑑となつたと
云ふ話を聞きました。之れは忠實と云ふ事に
ついて話をしたのですが此處に集まつた皆さ
んも一生懸命働いて、何でも人から「アノ
人ナラバ」アレナラ大丈夫」と云はれる様に
心掛けねばなりません。

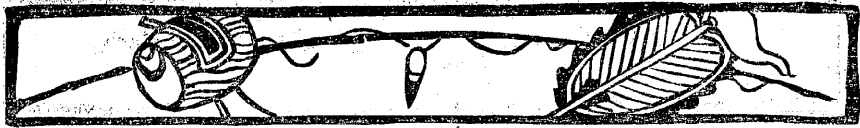
流行夏衣のいろ／＼

秀

湖

.....(4).....

地味な商人肌の人ならば先づ絹上布でしよ
うさもない人は絹縞縹縹です、いろ／＼な織
物が種々と織方を工夫する中に絹上布ばかり
は昔の通で殆ど變りませんが變らない所にこ
の織物の味は有るのです、價は拾七八圓より
上物三拾圓迄位です、絹縹縹の内でも經綸
風の極さつぱりした品が最も歡迎せられます



勿論色氣は鼠がかつた者です、羽織はやはり
經綸風の立紹か紗紹がよいでしよ横紹も紹
目を極く細くして縹縹をばうと出した品は面
白味の有る者です、縹縹は紹の紋入として帯は
共色献上か紋柄か小柳織がよいでしよ。

女物一式

綾と刺繡の世の中です大抵のものは綾と刺
繡がついて居ます假に若い婦人があつて存分
に今年の夏衣の粹を盡して見るとして御見立
をして見ましよう。

長襦袢は秋の七草が川邊模様の様な涼げな
友仙か又曙染です無論綾が入て居ります着
物は御召か縹明石か又は清風縹紗御召の地で
紋無し縹模様の柄は紺、茶、グリーンな
どの三色位で出来た縹縹模様のものに縹は麻
の縹縹などを派手に出してそれへ銀の箔で花
菱など面白でしよ、帯は地合にはどうも別
段變たものといふ程のものも少ないやうに見

えますが普通の所で糸縹、唐織、紗縹、紹友
仙、少し凝て綾り地、も一つ凝ると八反、縹
瀬などが有ります糸縹と唐織とは阿波縹のや
うなしほを取つたのが尤も多いやうですそし
て縹を應用して巧に金糸銀糸などの刺繡で模
様をあしらつたものもあり又古代更紗や
廣東柄を縹縹又は三角形にはぎ合はしたもの
も有り又はぎ合したやうに見せて染合はした
ものも有ります又八反の縹は地が八反ですから
浮いた調子がなく飽くまで江戸がかつたもの
です色氣は一體強いはつきりした色を粹にあ
つかつて取合はしてあります地色は黒のも多
いが茶がかつたのも多いやうですそれへ紅梅
色だの青竹色又は、蕪茶、燕脂などの色の模
様に金銀の箔置、金銀蕪黄などの刺繡を使つ
て有ります黒地も朱子地を縹縹で市松に見せ
それへ刺繡だけ大柄の模様を出したのも宜
しいやうです殊に紅梅色などは支那人の袴の

.....(5).....



色などから取た色らしく之迄に見受ないほど珍らしい使ひ方ですそれも或向では此色を鈍くしてオトリした色に出し或向では向出しで大膽に使つたのも有ます羽織の生地は絹錦紗、紋絹錦紗、優雅錦紗などか、ぐつと變つたものとすれば裾一文字に麻の葉紋を出して紋柄をくぐりくぐりに金銀の箔置きなど面白からうと思ひます色氣は紺か空色がかった色か茶味を帯びた鼠色がよいようです、半襟は近頃迄小花かちの柄でしたが今年はその小花へ小袖幕とかのれんとか何かあしらひがつくやうになりました色合は藤色の變つたのか茶味を帯びた薄鼠かグリーン色です。洋傘は紺か青竹色などでへりに大ハイカラで草花の飾がついて居るなど新しい方です。

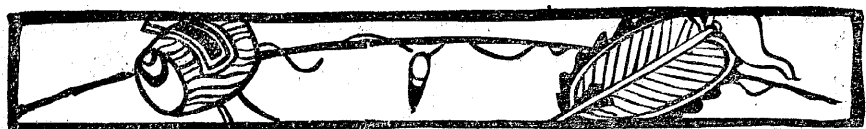
* * * * *

△おぼろがき

○衣服の「フキ」の崩れぬ法
着物を何枚も重ねて簞笥にしまつて置きますと、自然フキが崩れますから、着物を一枚入れた上に帯をのせ、また着物、また帯といふ風に一枚おきにしまつておきますと、着物と着物の間に帯が挟まるやうになりますから決してフキが崩れません。

○絹物のしつけ糸に麻糸
絹物のしつけをとつた後に針穴の明くのは誠に不體裁ですが、麻糸を使ひますとその心配はありません。

○衣物の虫よけに唐辛子
衣服を保存しますのに、樟腦のかほりに唐辛子を入れておきますと樟腦を入れたと同じで、虫もつかず、濕氣もまわりません、それに樟腦を入れておきますと、衣類に匂ひがつ



いて困りますが、唐辛子はそんなことはありません。

○新しい鍔を使ふには
新しい鍔を使ひます時は、髪油か種油をネルなどの布に浸しておき鍔をよく焼いて二三遍こすりますと、決して錆が出ません。

○インキのシミに牛乳
衣服や畳にインキのついた時は、牛乳で洗ふと直ぐに落ちます。畳などは洗ふことが出来ませんから、牛乳を滴して、その上から不用の布で拭くのです。衣服などは後を水で二三度よく洗つておきます。

○絹物に微の生えた時は
高貴織や糸織はしまつてをくと微が出て困るものですが、これはビロオドでこすりますと、地も傷はず奇麗になります。

○紋付の紋に眞綿を
新しい紋付の紋だけが赤くなるのがよ

くあるものです、あれはしまつておく時布や紙のかわりに、眞綿を四寸角位脊のは四寸に六寸ぐらいに切つてあて、包んでおきますと決して赤くなることはありません。

○絹物をほどく時に
絹物の衣服の古くなつたのを解く時に、とかく糸の抜けなことがよくありますその時は顯か或は額で二三度こすると抜け易くなります。

○胸の寛やかな衣服
十六、七歳ぐらいからの娘の着物は襟を普通の一寸五分幅にしたのでは苦しいございますから、襟肩のところから下の方へ一寸八分位の撥襟にいたしますと體裁もよく着易くて宜しいございします。

○絹物の艶の光を消すには
絹物の裏ねを縫ひます時、ヘラを使ひますと、あとが光つて困ります、其時はヘラの跡



へ濡れた糸をのせてその上から鰻を當てます
と光が消えてしまひます。

御客様方へ

遠國の御客様方へ

遠國より御手紙などにて御注文遊ばされ候
事は必ず其の店を御信用の上にて御下命の事
と存じ候御自身御来店下され御求め遊され
るとは違ひ吟味撰擇は全く當店の責任有る事
に存じ候間特に遠國係を設け専ら之に當ら
しめ居り候右遠國係は多年熟練せる上各地
方へも出張致し其の地の人情風俗御状況
まで深く會得致し居り候者日々多數の御注
文書に接する事に數ある商品中より夫々御注
文に相叶ひ候様の候補品を見立其上更に數
人にて撰定致し百發百中を期し申し御送附申
上候順序に候間品質柄合等に就きては充

分注意致し萬遺漏なき事を期し居候間御安
心の上御注文下され度候 尚御注文に就て
左に細く記載致し置き候間是非御一覽被下
度候。

一、御注文書の料紙文句等は何の御斟酌無く
唯御入用品の要點のみ御記入下され候は
充分事足り申候。

一、御注文の節「前金御送附の御方様」には
書留小包便にて「御送附無き御方様」へは
引替小包便にて御送申上候。

一、運賃の儀は當分の内絹物類に限り弊店に
て負擔仕候得共綿布物に限り其半額申受
候。

一、御見本切其他御問合の節は遠國係宛御申
越し下され候へば委細相認め御返事申上べ
候。

一、御住所御姓名は御送附上最も必要に候へ
ば充分明瞭に御記入の程願上候。

以て御向ひに參上仕るべく候間御遠慮無
く御申越下され度候。

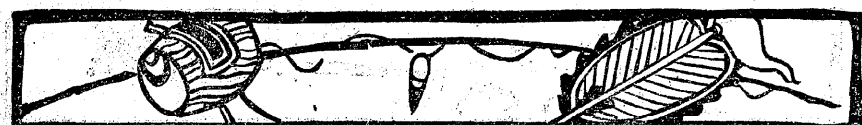
御送金に就いて

一、御送金は振替にても郵便爲替にても銀行
爲替にても宜しく御便宜御取計ひ下され度
候。

一、電信爲替にて御送金の際は何等の御通知
無之爲受取兼候場合も可有之候間其の
節は必ず別に電信を以て金額御姓名御知ら
せ被下度候。

一、振替貯金にて御送金下され候は極めて
御便利に候所貯金課手續の爲通常郵便
物よりは多少相遅れ申候に付此儀御承知
置き下され度候。

一、御拂込と同時に別注文書御差出しの場合
は通信文記載欄に其旨御記入の程願上候。
一、振替貯金用紙は何れの郵便局にても御渡



地方の御客様方へ

一、御注文書には左記の事柄御忘無く可相成
明細に御申越下され度候。
御着用の男女別、御年頃、御用途、御職
業、御好の模様及柄柄、御豫定價格。
一、御染物御仕立物は左の事柄御忘れ無く御
記被下度候。
男女別、御年頃、品名地質、日限、御定
紋、御定紋の有無及數、御寸法（相成べ
く細く御記下され度候）。

地方の御客様方は遠國の方とは異なり時々
御来店下され候か又は當店の様子を大方は
御存じの上御下命の事と存じ候。
尚新柄御照會の目的を以て時々店員相伺
せ申候に付其節は御入用品の有無に係ら
ず御一覽下され度願上候。
御光來前以て御通知下され候は自働車を



し可申候間御請求の上左記へ御拂込下され度候。

東京貳八七七番

一、振替にて御送金の際は左の料金を郵便局へ御拂込下され度候。

壹圓迄 一錢 五圓迄 貳錢

拾圓迄 四錢 五拾圓迄 六錢

百圓迄 八錢 五百圓迄 拾錢

千圓迄 拾貳錢

一、御送付申上候品は御一覽の上御氣に召し不申候場合は(御別染物、御仕立物等の加工品を除く)御遠慮なく御返送被下度候。尚御好の要點更に詳細御申聞被下候は充分精選の上御満足遊ばさるゝ迄何回にても御取替可申上候。

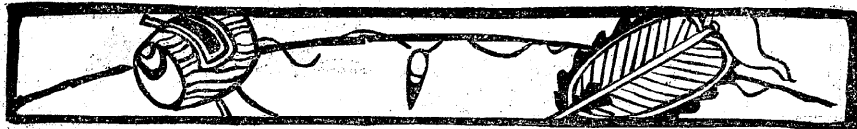
川越町
倉渡邊吳服店
電話川越貳六番

店頭裝飾法

研究 生

近來頻りに店頭裝飾が人目を引く様な傾向になつて來たのは誠に結構なる次第である店頭裝飾とは即ち「店先を飾る」と云ふ事である、此間私は某地の店頭裝飾競技會を見たら此の意味を正直に解釋して、何處の店も皆申し合せたやうに經木モールや萬國旗や色リボン等を以て綺麗に飾つてあつた成程店頭裝飾だな、とつくづく思つた、此れでは不可ない御祭りか何かなら店頭裝飾も必要だらう、而し平常からリボンやモールで飾り立て、御祭りをやる必要はない。

目的は「如何にして店を飾れば客足を止め店內に導き得べきか」と云ふ處にある、リボンやモールでは誰も立止つて見ない、初めから其の店で買ふと思つて居る人の外店内に這



入つて行かない。要は飾ると云ふ事よりも客を引寄せる工夫をする事である、何等かの方法で通行人の足を止め購買心を起させて店內に導くのである、店先で口で云はなくても何等かの方法で「こんな好い品があります、入らつしやい」と叫ばしめるのである、其の無言の叫びとも云ふ可き何等かの方法其の方法が今日の所謂「店頭裝飾術」である、即ち「店頭廣告術」である、店頭廣告術と云つた方が早くわかる。

世間では裝飾術と云つて居ても、夫れは廣告術であると云ふ事をよく心得て居らねばならぬのである、此れらの飾り方を爲すには時と場合と經費に由り然る可く選擇して常に人の注目を惹く飾り方、自先の變つた飾り方をして行けばよいのであるが第一に考へねばならぬ事は「金のかゝらぬ」と云ふ事である。

金を掛ければ思ふ事が出来るであらう、随分立派な飾り方も出来るであらう、而しそれは商人にとつて爲す可き事ではない、金はなるべく費はないがよい、金をかけないで効果ある陳列を行ふのが其の人の才能の見せ處である、或程度迄即ち陳列の効果を表はす迄は相當の費用を掛けねばならぬけれども觀衆が見てさいも贅澤に思はれるやうな陳列窓、一歩進んで「こんなに金をかけて之れが皆商品にかゝつて來て高いものを買はさせるのだなあ」と云ふ様な感起させるやうな事があればそれこそ由々しき事である。だから金は掛けないがよい、模範陳列の渡邊洋服部の春夏秋冬の飾り方に御注意が第一である。



當店洋服部

諸官衙及中學校染織學校ノ制服ヲ始メ各學生服ハ特ニ裁縫ヲ堅固ニシ價額最低廉ヲ以テ調製可仕候



本年夏服の流行に付て

今同營業の葉の夏の巻を發行するに當りまして春夏服の流行「スタイル」及び其地質色合等について二三を申し上げます、今や洋服界も其本元地より自轉車、自動車、飛行機、汽車、汽船等の文明利器が廣く用ゆるるゝに當り自然之に伴ない洋服を常用服とする者日に月にならざるは當然の事でありませう。

扱て洋服に於て通常服とも云ふべき春夏服に付て申せば立襟折襟一般に來従の如く服の各部を身體に密着させることなく、襟、肩、脊、胸の部分だけを身體に合せ他は總てを少しゆるめにし形を取り、流行としては上衣丈は少々短かく、若向としては大返り大形二つ釦亦二つ釦は二前か流行、然し温和向としては三つ釦が品格宜敷、本年米國式として折襟にも上衣に「表かくし」を附けます而し上衣の尻は立襟、折襟共割らぬのが流行、表地質としては霜降、ボーラ、霜降斜子セル、バナク

バン薄絨等にして紺セルも事務用服として目下流行色合として薄茶、薄鼠色、小格子、霜降等が流行、亦暑中服としては「ダーク」シユラシク「ヘカクローズ」「ベルモ」等にして白無地、薄茶色等が多く流行。

次に夏インパは塵防け雨防けとして益々流行です昨年と變た點としては、インパの總丈羽子丈總て長めになり襟は固く襟に氣持よき可限に密着し襟巾廣く胴ゆるく「ボケツト」は四箇大形黒貝釦六箇付にて總てたつぷりして「スタイル」地質としてはホームスパン、ボーラ霜降、縞セル薄絨等が流行亦暑中用としてアルパカ、ヘヤクロース等の品が流行亦昨年より雨よけとしてコム絨、クラブネツト等の防水絨で出まます。



渡邊洋服店ハ近來長足ノ發展ヲナシテ洋服ハ勿論其他洋裝附屬品
 ハナカ／＼嶄新奇拔ナモノヲ揃ヒテ置クヨ、ソシテ他ノ洋服店トハ
 違ヒ現品ヲ山ト積ンテ注文ヲ取ルノデアルカラ跡デ見本品ト違ッ
 タモノヲ造テ來ルヨ、ナ憂ガナイ又直段ハ頑固デア、ルガ他ヨリ安
 イヨ、トダ!!トハ紳士ノ赤裸々ナル告白デア、ル



營業品物價表

畚御染地類									
白縮	濱縮	白變縮	白鵝縮	綾浪縮	養老縮	錦紗縮	鹽瀬羽二重	各一反ニ付	
上中並	上中並	上中並	上並	上並	上並	上並	上中並		
二十八	二十五	十八三	十三	十三	十五	十八	三三		
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓		
白羽二重	白漣羽二重	白斜子	白紋二重	白紋縮	白紹羽織一枚分	金漣紗	畚紹及紹縮類		
上中並	上並	上中並	上中並	上並	上中並	上並	上並	上中並	上中並
二十八	二十	二十七	二十七	二十	十六	二十	二十	二十	二十八
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
立紗	黑紹羽織地	鐵紹羽織地	鐵紹變	紹縮	紹縮	立紹	各一反ニ付		
上並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並			
十八	十五	十六	十八	二十	二十	二十			
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓			

全工風絛	全綾物變織	伊勢崎銘仙	畚紬類		紗明	紹明	縞明	高貴雲井織	高貴織	紹高貴織
上並七五	上中並六八	上中並七九	各一反ニ付		上並二十五	上並二十五	上中並二十五	上並二十	上中並十七	上並十五
圓圓	圓圓圓	圓圓圓			圓圓	圓圓	圓圓圓	圓圓	圓圓圓	圓圓
畚帶地類		壁透	透	麻絛及縞	全上布絛物	全上布	越後	越後	飯能銘仙	全綿入
		上中並六八	上中並六八	上並六四	上中並二十	上中並二十八	上中並十七	上並十六	上並七四	上並五四
					十五	二十三	五			
		圓圓圓	圓圓圓	圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓	圓圓	圓圓
綿入丸帶	全綿拔八分七	朱珍帶本綿ナシ	全綿ナシ	厚板織綿入丸帶	幽谷織	糸錦綴織丸帶	變織丸帶	紗丸帶	紹朱珍丸帶	
上並五三	上並十	上中並五三	上中並二五	上中並十七	上並百五	上中並百五	上中並四二	上並四二	上中並三二	
	五	十	十	十五	十	十	十	十	十五	
圓圓	圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓	圓圓圓	圓圓圓

友仙縮緬	紹錦紗友仙	紹友仙	紹縮緬友仙	畚友仙類		全金銀糸入	立浪錦紗	清風錦紗	優雅錦紗	紋紹錦紗
上中並二十	上並四二	上中並十	上中並二十	各一反ニ付		上中並二十	上並二十	上並二十	上並二十	上中並二十
十五	八二	五	五			十五	十五	十六	十七	十六
圓圓圓	圓圓	圓圓圓	圓圓圓			圓圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓圓
無地紹羽尺御召	紹御召	畚御召高貴類		八橋友仙	紋羽二重友仙	羽二重友仙	太織友仙	麻友仙	四ッ入友仙	錦紗縮緬
上中並二十	上中並二十	各一反ニ付		上並十七	上中並十八	上中並二十	上中並七五	上並七四	上並七五	上中並三二
十五	十五			五	五	十五				十五
圓圓圓	圓圓圓			圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓	圓圓	圓圓圓
錦紗御召	錦綾御召	松影御召	都御召	紋御召	無地御召	縞本御召	縞紹着尺	紋紗コト地	無地紹着尺	
上中並三二	上並十七	上並二十	上並十	上並二十	上並二十	上中並十九	上中並二十	上中並十	上中並二十	
十五		十五	五	十五	十二	五二	十五	八三	十八	
圓圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓	圓圓圓

[illegible]

朱珍尺三	瓦斯京華尺三	山吹織尺三	白綸子丸帶	白朱珍丸帶	朱子及朱珍帶	黑朱珍丸帶	黑朱子丸帶	靜織丸帶
上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並	上中並
十十六	五三二	五三二	七五三	二七	二五	二八	十七四	二十
五				十五	十	十二		十

縮緬 中巾絞リ兵兒帶	全綿 交中巾	錦紗 縮緬絞兵兒	羽二重 絞大巾	全 中巾	太織 兵兒帶	絹絞 色物兵兒帶	羽二重 縮緬色物 絞リ兵兒帶	縮緬 江戸襦袢模 樣
上並 八五三	上並 三一四	上中並 十七五	上中並 四八五	上中並 三五四	上並 二一圓	上並 一四一	上並 四二	上並 三二
圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓

立縮 及江戸襦 袢模樣	縮緬 三寸模樣	縮緬 江戸襦袢 模樣	振袖 模樣縮緬	縮緬 斗目模樣	縮緬 友仙模樣	全袖口 共紐付	全八 掛付
上並 二十五	上並 二十	上並 三二	上並 五三	上並 十八	上中並 六十八	上並 十九	上並 二十
圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓

縮緬 白揚模樣	縫模 樣	斜子 熨斗目	羽二重 熨斗目	全共紐 袖口付	無地 縮緬初着	黑斜子 初着	黑斜子 初着	縮緬 友仙袖	縮緬 模樣女袖 地
上並 五	上並 十五	上並 十六	上並 十八	上並 十	上並 三	上並 五	上並 四	上中並 五	上中並 七
圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓

縮緬 友仙繪羽 縫	縮緬 跳	縮緬 跳	縮緬 跳	縮緬 跳	縮緬 跳	縮緬 跳	縮緬 跳	縮緬 跳	縮緬 跳
上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十
圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓

縮緬 友仙模樣	縮緬 友仙模樣	縮緬 友仙模樣	縮緬 友仙模樣	縮緬 友仙模樣	縮緬 友仙模樣	縮緬 友仙模樣	縮緬 友仙模樣	縮緬 友仙模樣	縮緬 友仙模樣
上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十	上並 二十
圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓

全繪羽 浴衣	四ッ 入絞リ	鹽瀬 友仙大巾 紗	全中 巾	縮緬 大巾	全中 巾	縮緬 大巾	縮緬 大巾	縮緬 大巾	縮緬 大巾
上並 五	上並 五	上並 五	上並 五	上並 五	上並 五	上並 五	上並 五	上並 五	上並 五
圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓	圓圓

畚單帶之部

七八	七圓二十五錢	博多女物單帶	上並	十五圓
七十	八圓八十錢	全小柳織	上並	十八圓
十	十一圓	實用家庭帶	上並	十七圓五十錢
本濱上沖風改良染		全友仙家庭帶	上並	二圓五十錢
		モス家帯	上並	二圓五十錢
六八	八圓八十五錢	蒔黄縫目無シ松緑印		
七八	九圓七十錢	(緑紅麻平鑽彫刻)		
七十	十一圓九十錢	六八同格	上並	二十圓
十	十五圓	七十同格	上並	十八圓
蒔黄縫目無シ松緑印		白裾ボカシ縫目無連印		
		(緑淺麻平鑽彫刻)		
六八同格	十二圓二十錢	六八同格	上並	二十圓
七十同格	十四圓八十錢	七十同格	上並	十八圓
白裾ボカシ縫目無連印		白裾ボカシ縫目無養老印		
		(緑淺麻平鑽彫刻)		
六八同格	十圓四十錢	六八同格	上並	二十圓
七十同格	十三圓六十錢	七十同格	上並	十八圓
白裾ボカシ縫目無養老印		白裾ボカシ縫目無養老印		
六八同格	十五圓六十錢	六八同格	上並	二十圓
七十同格	十九圓二十錢	七十同格	上並	十八圓

株式會社 川越渡邊銀行營業案内

○資本 金 五拾萬圓

○積立金及繰越金 金七萬四千四百貳圓參拾參錢也

○諸預り金 金貳拾貳萬六千六百參拾七圓參拾壹錢也 (大正六年四月廿五日調査)

○營業種目

- 一、定期預金 金(六ヶ月又は一年と一定の期限を定め御預けになる預金に有之候得共特に期限内御入用の節は相當の利子を付し御拂戻可致候)
- 一、當座預金 金(一、金額の多少に拘らず當座預金證書發行致し候
二、當座勘定の御契約被成候へば日常御取引に御使用の資金を御預の上御引出又は支拂には小切手御使用相成る方法に有之候)
- 一、特別當座預金 金(御出納貯蓄資金の御預け金にて一口五圓以上何程にても通帳を以て御隨意に出入致す方法に有之候)
- 一、貸出 金(商品又は公債若しくは確實なる株券或は不動産等を擔保として手形又は證書にて御用立致候)
- 一、當座預金貸越 金(當座預金御取引にて御預け金の外一時御使用可相成輕便なる方法に候)
- 一、割引取手 形(商賣御取引の代金として御受取の手形低歩に割引致候)
- 一、代金取立 金(實掛代金配當金其の他總て集金を迅速に御取立申上候)
- 一、爲替 替(目下の處左の通り各地に取引銀行有之候間送金爲替爲替等充分御便宜に御取扱申上候)
- 一、證券保管 管(御所持の有價證券類保護御預り致し候)
- 一、普通貯蓄 金(金壹圓以上何程にても御預り申候
毎月五日迄に御預りの分は其の月より利子を付し其の後の分は翌月より利子を付し候
公共團體社寺學校等の貯蓄に對しては特に御相談致すべく候)
- 一、据置貯蓄 金(此貯蓄は豫め拂戻し期限を定め其の期間内に受入れたる預金を期限満了後拂戻しを爲す方法に有之候期限は一ヶ年以上と定め候)

[illegible]

越 川 (行 京)

◀ 表 間 時 車 汽 道 鐵 上 東 ▶

◀ 馬車發着時間表 ▶

岩 小 野 飯 上 中 須 平 大 屋 伊 上 松 長
村
田 諸 澤 田 田 野 坂 野 町 代 那 訪 本 野 ○ 館 桐 松 安 境 伊 岡 瀧 富
井 勢 川 岡

○長野縣

富岡銀行	澁川產業銀行	澁川銀行	伊勢崎銀行	同行境支店	碓氷產業銀行	同行松井田支店	第四十銀行	同行館林支店	縣	信濃銀行	同行松本支店	同行上諏訪支店	同行伊那支店	同行屋代支店	同行大町支店	同行平野支店	同行須坂支店	同行中野支店	同行上田支店	同行飯田支店	志賀銀行	同行小諸支店	同行岩村田支店
------	--------	------	-------	-------	--------	---------	-------	--------	---	------	--------	---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	------	--------	---------

古結水　　佐船北木大茂東同佐千　　大上谷明五鰵同甲
河城戸○_芝原橋條津綱原金　倉業○月原村穗明澤府○

○千葉

縣	市川銀行支店	市川銀行	同行五明支店	同行明穗支店	谷村商業銀行	同行上野原支店	同行大月支店	縣	川崎銀行支店	同行佐倉支店	大野銀行支店	大野銀行	同行茂原支店	同行大綱支店	木更津銀行	安房銀行	船橋商業銀行	佐原興業銀行	縣	川崎銀行支店	結城銀行	百二十銀行
---	--------	------	--------	--------	--------	---------	--------	---	--------	--------	--------	------	--------	--------	-------	------	--------	--------	---	--------	------	-------

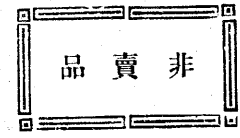
熊大皆下羽深秩本飯所小川豐同鴻同忍越粕杉岩川浦 下湊
ケ 吉 ケ
谷宮野田生谷父庄能澤川越岡 巢 谷壁戸槻口和 館

○埼玉縣

[illegible]

川越電車及汽車時刻表 ●印は急行券入用

川越電車	上リ汽車 大宮發	下大宮發 リ興州線	下大宮發 リ高崎線	下リ汽車 上野發	電車 大宮發
五、三〇	六、三〇	六、三三	六、四二	五、三〇	六、三〇
六、〇〇	六、三〇	六、三三	七、三二	六、〇〇	七、〇〇
六、三〇	七、〇〇	八、〇五		六、五〇	七、三〇
七、〇〇	七、三〇			七、〇五	八、〇〇
七、三〇	八、〇〇	九、四五	八、五六	七、五五	八、三〇
八、〇〇	八、三〇	一〇、一三	一〇、〇四	八、三〇	九、〇〇
八、三〇	九、〇〇	一〇、三三		九、〇〇	九、三〇
九、〇〇	九、三〇	一一、一九		九、三〇	一〇、〇〇
九、三〇	一〇、〇〇	一二、四二		九、六〇	一〇、三〇
一〇、〇〇	一〇、三〇	一二、五五	一二、一六	一〇、三〇	一一、〇〇
一〇、三〇	一〇、六〇			一〇、六〇	一一、三〇
一〇、六〇	一〇、九〇			一一、〇〇	一二、〇〇
一一、〇〇	一一、二〇			一一、三〇	一二、三〇
一一、三〇	一一、五〇			一一、六〇	一二、六〇
一一、六〇	一二、一〇			一二、〇〇	一二、九〇
一二、〇〇	一二、三〇			一二、三〇	一三、〇〇
一二、三〇	一二、五〇			一二、六〇	一三、三〇
一二、六〇	一二、八〇			一二、九〇	一三、六〇
一二、九〇	一三、一〇			一三、二〇	一三、九〇
一三、二〇	一三、四〇			一三、五〇	一四、〇〇
一三、五〇	一三、七〇			一三、八〇	一四、三〇
一三、八〇	一四、〇〇			一四、一〇	一四、六〇
一四、一〇	一四、三〇			一四、四〇	一四、九〇
一四、四〇	一四、六〇			一四、七〇	一五、〇〇
一四、七〇	一五、〇〇			一五、〇〇	一五、三〇
一五、〇〇	一五、三〇			一五、三〇	一五、六〇
一五、三〇	一五、六〇			一五、六〇	一五、九〇
一五、六〇	一五、九〇			一五、九〇	一六、〇〇
一五、九〇	一六、二〇			一六、二〇	一六、三〇
一六、二〇	一六、五〇			一六、五〇	一六、六〇
一六、五〇	一六、八〇			一六、八〇	一六、九〇
一六、八〇	一七、一〇			一七、一〇	一七、二〇
一七、一〇	一七、四〇			一七、四〇	一七、五〇
一七、四〇	一七、七〇			一七、七〇	一七、八〇
一七、七〇	一八、〇〇			一八、〇〇	一八、一〇
一八、〇〇	一八、三〇			一八、三〇	一八、四〇
一八、三〇	一八、六〇			一八、六〇	一八、七〇
一八、六〇	一八、九〇			一八、九〇	一九、〇〇
一九、〇〇	一九、二〇			一九、二〇	一九、三〇
一九、二〇	一九、四〇			一九、四〇	一九、五〇
一九、四〇	一九、六〇			一九、六〇	一九、七〇
一九、六〇	一九、八〇			一九、八〇	一九、九〇
一九、八〇	一九、九〇			一九、九〇	二〇、〇〇



大正六年六月一日發行
大正六年六月五日發行

埼玉縣入間郡川越町大字川越四百九十番地

編發行人 渡邊吉右衛門

東京市神田區柳町一番地

印刷人 池田惣三郎

東京市神田區錦町一丁目三番地

印刷所 大橋省三堂

川 越 鍛 冶 町

畠

山 田 屋 號

渡邊吉右衛門商店

服 部 吳

電 話 (二六十二番)

振替口座(二八七七番) 電信略號(マヤ)

卸 部

川越鍛冶町(本店ノ筋向)

畠渡邊吉右衛門商店

山田屋號 電話(二六二番) 電信略號(マヤ) 振替口座(二八七七番)

株式會社

川 越 志 義 町

畠川越渡邊銀行

電話(四一番) 振替口座(二九〇四六番) 電信略號(マヤ)

洋服部

川越鍛冶町(本店ノ筋向)

畠渡邊吉右衛門商店

山田屋號 電話(二六二番) 電信略號(マヤ) 振替口座(二八七七番)